

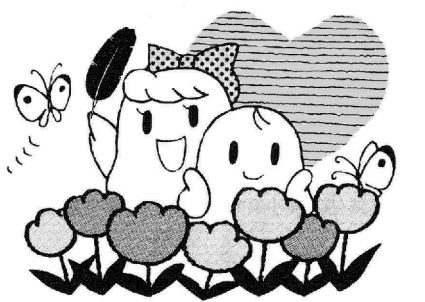
くりやま社協だより

2008
6・1



認め合い、支え合い、
大きく広げよう福祉の輪

継立小学校4年生 視覚障がいについて学ぶ



愛ちゃん と 希望くん
© 中央共同募金会

- 社会福祉協議会事業方針・新役員紹介… 2
- 社会福祉協議会予算・決算報告…………… 4
- 第4期地域福祉実践計画…………… 5
- 心のふれあう地域づくり推進会議報告… 6
- 社会福祉協議会からのお知らせ…………… 8

社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分を受け作成しています

「声の広報・くりやま」をお届けします

～栗山リーディングサービス・とらいあんぐる～

栗山リーディングサービス・とらいあんぐるは、町の広報誌を朗読（音声訳）して、カセットテープに吹き込み、「声の広報・くりやま」、「くりやま議会便り」を作成しており、今春5月で活動10周年を迎えました。

また、新聞や小説・童話などの朗読による交流もしており、視覚障がいや高齢の方が情報を得、社会参加が広がることを願って活動しております。

しかし、朗読の機械も現在のデジタル化の影響を受け、テープからCDへ移行が進められてます。利用者からの希望もあり、今後の対応を検討していたところ、今年度、独立法人福祉医療機構の「高齢者・障害者福祉基金」からの助成金で、専用の機材を購入できることになりました。

今後多くの方に地域の情報をお届けいたしますので、ご家族、お知り合いの方で利用の希望がありましたら、お気軽にご連絡ください。

- ◆利用対象者 目の不自由な方
- ◆ご利用方法
 - ・テープ又はCDをご自宅にお届けします。
 - ・テープは図書館でも利用できます。
 - ・利用料は無料です。
- ※CDは朗読用の専用機器が必要です。

◆申し込み、お問い合わせ先
0123-72-1035（出村宅）



▲私たちがお届けします

ご厚志ありがとうございます

平成20年2月21日以降 平成20年5月20日までにお寄せいただいた方

●金一封

青木 一夫様 (杵臼) 社会福祉事業へ
幅田 伸二様 (南学田) 父の逝去による供養
前田 裕子様 (中央3) 母の逝去による供養
斉藤 恵美子様 (中央4) 夫の逝去による供養
服部 麻子様 (中央4) 夫の逝去による供養
磯西 豊様 (角田) 父の逝去による供養
工藤 シゲ子様 (中央4) 母の逝去による供養

●物 品

藤原 勝美様 (中里) より
ポータブルトイレ1台

託児ボランティアの 登録者を募集してます！

- ★活動回数 年間5回程度
- ★活動内容 子育て講座等に参加する方のお子さんを託児します。
- ★会 場 栗山町内の施設
- ★登録条件
 - ・男女問わず子どもが好きな方
 - ・ボランティア活動保険に加入いただける方
 - (保険加入料：年間260円)
- ★申 込 先 栗山社協(電話：72-1322)



平成20年6月1日発行

発行：社会福祉法人
栗山町社会福祉協議会

〒069-1513 栗山町朝日4丁目9番地36
栗山町総合福祉センター「しゃるる」1階
TEL (0123) 72-1322
FAX (0123) 72-5121
E-Mail k-shaky@jeans.ocn.ne.jp
ky_sya@mskk.gr.jp

印刷：山東印刷株式会社

表紙の写真は、継立小学校で行われた福祉教育で、4年生13名が視覚障がいについて学んでいるところです。講師には視覚に障がいのある永杉治療院の永杉忠さんを招き、「目が見えなくなった時に非常に落ち込み苦しみましたが、現在はそれを乗り越え、明るく楽しく生活しています。みなさんも自分の身体を大切にがんばってください。」と話がありました。児童たちはアイマスクをしながらの歩行や卓球、点字をうった自分の名前を永杉さんに読んでもらい、「うまくできてたのでうれしかった」と話していました。

編
集
後
記

社会福祉協議会事業方針

地域の支え合いの輪を広げよう！

平成20年度

地域福祉計画 実践スタート

栗山町社会福祉協議会（通称「社協」）は、去る3月24日開催の理事会と評議員会に、平成20年度の事業計画及び予算を提案し、可決されました。特に本年度は、向こう5カ年の地域福祉実践計画スタートの節目であり、吉田会長は地域の支え合いの輪をさらに広げるため、地域福祉活動の推進を重点に取り組む姿勢を示しました。町民の皆さんのご支援、ご協力をお願いいたします。

近年、少子高齢化の急速な進行、過疎化と人口減少等の地域をめぐる情勢の中で、地域住民の「繋がり」の希薄化が指摘され、高齢者等の「孤独死」や高齢者・児童への虐待、悪質商法・消費者被害、災害発生時における要援護者の把握・支援等の問題が顕在化しています。

こうした地域課題や生活課題に対して、多様な関係者機関のネットワークにより、地域における防止、早期発見、個別支援活動や支援体制づくりを、住民との協働のもとに進めていくことにより、誰もが住み慣れた地域や家庭で安心して暮らすことができるような「仕組み」づくりが求められています。こうした中で社会福祉協議会は、公共的な民間組織としての機能を生かして地域福祉の充実、進展のために、さらなる活動を展開してまいります。特に本年度は、社会福祉協議会第四

期地域福祉実践五カ年計画の初年度として、本計画の指標である「認め合い、支え合い、大きく広げよう福祉の輪」の実現に向けて、町民皆様と協働のものと円滑にスタートできるように取り組んでまいります。

◆地域福祉活動の推進

先ず、地域福祉活動の推進についてですが、町内会・自治会と連携し、地域の支え合いをさらに推進するため「愛らぶ事業」並びに「ふれあいサロン事業」の拡大推進に努めるとともに、町が提起している「自治区制度」については社協活動との連動性が極めて強いことと、これまで開催の「心のふれあい地域づくり町民懇談会等」の意向を踏まえ、社協としてもその動向を見ながら関係団体と緊密な連携を図り関わってまいります。また、低迷する経済情勢の中で生活



▲ふれあいサロン事業を楽しむ松栄町内会の皆さん

◆ボランティア活動の推進

ボランティア活動の推進につきましては、町民のボランティア活動への関心を高め、積極的なボランティア活動が展開されるよう各種養成講座を実施します。

必要です。

◎福祉委員制度の導入

◆福祉委員による「ふれあいチーム」を編成し、見守りやお手伝いが必要とする方への情報の共有と地域内福祉活動の協力体制づくりが重要です。

・福祉委員とは

地域の福祉問題を発見し、解決のために近隣住民に働きかけたり、民生委員・児童委員等と協力して活動を推進していただく方です。

・活動内容

ふれあいチームの編成調査活動・及び支援活動です。

■地区社会福祉協議会の設置も視野に町においては、昨年、既存町内会・自治会を維持しながら全町14地区に分

ける自治区制度を創設し、次代に向けた新しい住民自治の推進が提起されました。

社協と栗山町内連合会は、昨年12月福祉関係団体を対象に自治区制度をテーマに「心のふれあい地域づくり懇談会」を開催。この懇談会には90名の関係者が参加されました。

熱い意見交換がなされた結果、年々少子高齢化が進む中で、将来を考えると地域で支えあう仕組みづくりとして『自治区制度』については、多少の困難があっても次世代のために必要であるとの意見が大勢でありましたので、町では平成20年度にモデル地区の指定を進めています。

社会福祉協議会としては、新しい自治区制度の動向をみながら、効果的な

組織運営ときめ細かな地域福祉活動を推進する手法として、関係機関・団体と連携し、町民皆さんの理解と協力のもと、自治区制度とあわせて地区社会福祉協議会の設置・運営等についても検討する必要があります。

■助成措置

町社協は、町内会・自治会が自主的に取り組む福祉活動に対し応分の助成措置が必要です。

■次代へ向けた地域づくり啓発・推進町社協は、地域づくり推進会議報告書を尊重し、各町内会・自治会の理解と協力を得て、安心・安全・福祉のまちづくりに努めてまいりますので、町民皆さんのご支援をお願いいたします。

心のふれあう地域づくり推進会議委員

委員長	吉田輝雄	(栗山町社会福祉協議会会長)
副委員長	友成光男	(栗山町内連合会会長)
委員	今井實一	(栗山町内連合会監査)
	市川耕一	(角田町内会連合会長)
	木内勲雄	(継立町内会連合会会長)
	山越正志	(鳩山自治会会長)
	久保昭男	(杵臼自治会会長)
	大場定幸	(南学田自治会会長)
	渋谷悦朗	(ときわ町内会会長)
	月輪淳裕	(栗山町民生委員児童委員協議会会長)
	高橋松男	(栗山町老人クラブ連合会副会長)
	柳田陽一	(栗山町健康づくり推進協議会会長)
	磯見秀喜	(栗山町防犯協会副会長)
	藤田栄治	(栗山商工会議所商工青年部会長)
	塩見幸浩	(栗山青年会議所直前理事長)
	斉藤悦男	(栗山町青少年育成会会長)
	星野光行	(栗山小学校PTA会長)
	藤本敦子	(栗山中学校PTA会長)
	井田恵子	(栗山町女性団体連絡会会長)
	後藤英樹	(わがまちくりやま会議)
	下山梅子	(わがまちくりやま会議)
	衣川秀敏	(栗山町ボランティア連絡協議会会長)
	小野司	(栗山町経営企画課長)
	花田正博	(栗山町教育委員会教育次長)
	獅ヶ堀重孝	(栗山町社会福祉協議会福祉部部長)
	柊澤彦	(栗山町社会福祉協議会福祉部副部長)

※策定時役職名



▲これからの地域福祉の方向性を議論した推進会議

社協新役員ご紹介

(任期 平成20年4月1日
平成22年3月31日)

【役員】

会長	吉田輝雄	(再任)
副会長	獅ヶ堀重孝	(新任)
常務理事	岩田美春	(再任)
理事	前田勝治	(再任)
理事	木内勲雄	(再任)
理事	齊藤幸浩	(再任)
理事	川本正昭	(再任)
理事	花澤彦彦	(新任)
理事	今井良子	(再任)
理事	丸山紘司	(再任)
理事	細山孝一	(再任)
理事	榎扶美子	(再任)
理事	木藤浩二	(再任)
監事	梅津弥須治	(再任)
監事	長崎忠	(再任)
【評議員】		
松風第1町内会	佐々木信之	(再任)
松風第5町内会	竹鼻康	(再任)
松風第6町内会	大谷敬	(再任)
松風本町町内会	清	(新任)
8区親交会	今井實	(新任)
南町内会	河村茂	(新任)
北町内会	北間則之	(新任)
松栄町内会	八木橋義則	(再任)

不要な入れ歯

歯に詰めた金属
捨ててませんか？



▲入れ歯回収ボックス

社会福祉協議会では、不要になった「入れ歯」の金属部分をリサイクルする「入れ歯」回収ボックスを設置しております。

歯にかぶせたり、詰めた金属、歯と歯をつないだ金属も貴重な資源として生まれ変わります！

●出し方

汚れを落とし、熱湯か入れ歯洗浄剤(除菌タイプ)で消毒し、新聞などの厚手の紙に包んで回収ボックスへ。※金属の付いていない入れ歯は回収できません。

●回収ボックス設置場所

・役場新庁舎ロビー
・総合福祉センターしゃるる

●問い合わせ先

・栗山町社会福祉協議会
電話 72-1322

これからの町内会・自治会活動は 町民の力で 地域を変えよう！ 栗山町心のふれあう地域づくり推進会議報告



毎日の生活で誰もが望むこと、それは「健康で安心して地域で暮らすことができる」そんな社会ではないでしょうか。

栗山町社会福祉協議会は、平成18年11月、「栗山町心のふれあう地域づくり推進会議」を設置以来、栗山町の安心・安全・福祉のまちづくりへの方向性と地域に住む人々の役割について議論を重ねていただき、本年2月8日の会議で、その結果が報告書としてまとめられましたので、その概要をお知らせします。

■推進会議の目的

今日の高齢社会の進行や社会経済の変容の中にあつて、高齢者の「孤独死」や悪質商法の被害、地震や台風の防災対策など多様な問題を抱えている中で、地域に住む人々の希薄化がひろがり、これまで以上に町民相互の助け合いによる地域づくりが求められています。

そこで、社会福祉協議会では、町内会・自治会が現在抱えている問題や将来想定される問題を整理し、一歩進めて、子どもからお年寄りまで、見守り支えあう活動や町内会・自治会の協力関係を高める活動がより効果的に展開され、安心・安全・福祉のまちづくりを進めるための協働体制のあり方を示すことを目的に、平成18年11月、福祉・教育・行政関係者27名による「栗山町心のふれあう地域づくり推進会議」を設置しました。



▲伊達市自治会連合会役員を招き委員研修会

■道内先進地に学ぶ

推進会議は、道内先進地の活動事例を学び議論していただくため、伊達市及び本別町から住民主体の自治会活動を実践されている連合会役員・社協職員を招き学習会を重ねて、栗山町における地域支援体制のあり方を協議しました。

■町内会・自治会組織の状況

栗山町の自治組織数は、町内会45・自治会21の計66単位会です。このうち、50世帯未満が48・5%の32単位会、50～100世帯未満が19単位会の28・8%です。100世帯未満の単位会は現在77・3%と、町全体の約8割となっています。今後も、各町内会・自治会の世帯数はさらに減少することが予想されます。

■高齢者人口、高齢化率の推移

栗山町の高齢化率（65歳以上の人口）は、平成19年3月末現在30・02%の4,255人。高齢者世帯状況は、一人暮らし高齢者959世帯、高齢者夫婦868世帯と合わせて1,827世帯で、毎年増えています。

■町内会・自治会における地域活動の充実対策
町内会・自治会を住みよい地域にしていくためには、そこに住む人々の理解と協力、行動と参加が不可欠であり、地域活動を通して自分たちの地域を活性化させていくことが大切です。

そのためには、地域に住む人々が地域活動を核として、地域のニーズに沿った事業活動が必要です。

また一方では、多くの町内会・自治会において世帯数の減少や高齢化の進行など地域課題を抱えていることも現実ではありますが、いつまでも手をこまねいては課題の解決にはなりません。一歩前進させるためには、各町内会・自治会はじめ老人クラブ、民生委員・児童委員、女性部など関係者の協力のもと、次の事例を参考にした福祉活動の体制づくりに取り組み「町民の力で地域を変える」熱いパワーが、今こそ必要であります。

■町内会・自治会の福祉活動の取り組み事例

◎福祉部を設置

◇町内会・自治会に福祉部を設置し、福祉活動の役割を明確にすることが

さらに、ボランティア団体の活動を支援するとともに、青少年のボランティア学習を奨励し、福祉教育を助長してまいります。

◆在宅福祉サービスの推進

在宅福祉サービスの推進につきましては、家族介護で苦労されている方々の『リフレッシュ事業』や判断能力が不十分な高齢者や障がいのある方の日常生活を支援する『地域福祉権利擁護事業』は、利用者増が見込まれることから事業の充実を図ります。

また、介護サービス事業は、関の事業所と肩を並べながらも、社協に寄せられる期待や存在意識そのものを踏まえながら、他には担うことのできないニーズに対応していく必要があります。利用者に安心感をもたらし堅実な運営と、採算性を視野に入れた安定した

経営を目指しながら、質の高いサービス提供に努めてまいります。

◆適切な社協運営

地域社会を取り巻く福祉環境は、引き続き極めて厳しい状況にあります。社協の果たす役割、取り組むべき事業を見極め適切に実施するとともに、町内会・自治会をはじめ福祉関係団体等のご理解・ご協力のもと、次代に向けて「人にやさしいまちづくり」を進めてまいります。

社会福祉協議会活動に対しまして、町民皆様の一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

●社会福祉協議会の主な事業

★地域福祉活動の推進

- ・愛らぶ活動補助事業
- ・ふれあいサロン補助事業

就任のご挨拶



社会福祉法人
栗山町社会福祉協議会
会長 吉田 輝雄

この度の役員改選にあたり、引き続き会長の重責を担うことになりました。これまで、町民皆様から寄せられました温かいご支援・ご協力に衷心より感謝申し上げます。

近年、少子高齢社会の中で、地域の人々の生活を支え、地域福祉を高める活動を行なう社会福祉協議会に対する期待は、年々高まりを増す中で「ふれあい、支えあう住み良いまちづくり」を推進するためにその責任を自覚し、新しい時代の求めに応じた社協活動に取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも、町民皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、就任のご挨拶といたします。

★在宅福祉サービスの推進

- ・居宅介護支援事業の適正運営
- ・訪問介護事業の適正運営
- ・障害者自立支援事業の適正運営
- ・地域福祉権利擁護事業支援体制の充実
- ・家族介護者リフレッシュ事業
- ・在宅高齢者生活意識調査の実施
- ・福祉杖の交付
- ・車椅子の貸し出し
- ・栗山町からの受託サービス事業（配食、外出支援、電話、除雪、寝具洗濯・消毒）

★ボランティア活動の推進

- ・ボランティアの発掘・育成
- ・ボランティアスクールの開設
- ・人にやさしいまちづくりセミナー開催
- ・学校ボランティア活動普及推進
- ・ボランティア活動研修交流
- ・まちを美しくする花いっぱい運動
- ・ふれあい広場くりやま開催
- ・知って得する福祉なんでも講座（福祉出前講座）
- ・安心、安全、福祉のまち懇談会
- ・自治会制度モデル地区との連携（心のふれあう地域づくり推進）
- ・共同募金歳末たすけあい募金
- ・生活福祉資金貸付
- ・無料法律相談の開設（札幌弁護士会）
- ・児童、障がい者、高齢者等団体への助成
- ・社協だより発行

★運営体制の充実

- ・財政運営の健全化
- ・社協情報の公開
- ・役職員の各種研修会への参加

山の手町内会	三好隆 幸(新任)
角田町内会連合会	用川信 男(再任)
継立町内連合会	飯尾憲 男(再任)
日出連合町内会	山下雪 子(新任)
富士自治会	高山清 明(新任)
北学田自治会	吉田敏 男(新任)
杵臼自治会	山崎昌 弘(新任)
三日月自治会	水本秀 幸(新任)
南学田自治会	幅田伸 二(新任)
円山自治会	久光俊 次(新任)
栗山青年会議所	梅津良 平(新任)
栗山商工会議所	松本良 美(新任)
民生委員協議会	後藤忠 弘(再任)
農民協議会	山本 強(新任)
栗山地区連合会	松原和 義(新任)
青少年育成会	藤田栄 治(再任)
女性団体連絡会	鈴木美智子(新任)
青年団体協議会	亀森隆志(再任)
ボランティア連絡協議会	下山梅子(新任)
栗山消費者協会	稲市 男(再任)
特養くりのさと	菊池鉄 男(再任)
栗山町老人クラブ連合会	高橋松 男(再任)



▲吉田社協会長に答申書を手渡す月輪委員長(右)

○基本目標○

1. 見守り支えあう住民主体の地域福祉ネットワークづくり
2. 地域福祉活動を担う人材の発掘と育成
3. 必要なサービスが受けられる仕組みづくり
4. 社会福祉協議会の役割と基盤強化

計画策定にあたって

福祉を取り巻く環境が一層厳しい時代背景の中、地域福祉事業の重要性が問われ、社会福祉協議会の果たす役割はますます大きいものになってきています。

策定委員会は、これからの地域福祉の向上に社協が推進役となって多様な団体・組織と連携し、地域の課題解決に具体的に取り組み、誰もが安心して暮らせる「人にやさしい福祉のまちづくり」を目標に積極的な活動展開を期待いたします。

計画策定委員会委員

委員長 月輪 淳 裕

(栗山町民生委員児童委員協議会長)

副委員長 獅々堀 重 孝

(栗山町社会福祉協議会福祉部会部長)

委 員 友 成 光 男(栗山町内連合会長)
渋谷 悦 朗(ときわ町内会会長)
市 川 耕 一(角田町内会連合会長)
高 橋 松 男(栗山町老人クラブ連合会副会長)
藤 田 敦 子(栗山町女性団体連絡会長)
斉 藤 幸 浩(栗山町青少年育成会会長)
下 山 梅 子(栗山町ボランティア連絡協議会長)
坂 本 武(NPO法人栗山町手をつなぐ育成会理事長)
菊 池 鉄 男(特別養護老人ホーム「くりのさと」管理課長)
梶 澤 彦(栗山町社会福祉協議会福祉部副部長)
小 野 司(栗山町住民福祉課長) ※策定時役職名

栗山町社会福祉協議会は、平成20年度から5年間の新しい地域福祉実践計画の策定にあたり、昨年8月29日、第4期地域福祉実践計画策定委員会を設置し、委員に福祉関係者13名を委嘱。委員会は、社協から提案された計画案を地域が抱える課題を見据え、慎重に議論を重ね、本年2月28日に社協会長へ答申されました。

社協は、これを受けて理事会で審議、3月24日開催の評議員会に提案し、可決されました。

この地域福祉実践計画は、「認め合い、支え合い、大きく広げよう福祉の輪」を基本理念としており、『いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らしていきたい』。そうしたあたりまえの生活ができるよう町民の皆さん関係機関・団体等の皆さんと協働して安心・安全・福祉のまちづくりを目指し、地域福祉活動を進めていく具体的な計画として策定いたしました。

第四期地域福祉実践計画(平成20年度～24年度) 認め合い、支え合い、 大きく広げよう福祉の輪 安心・安全・福祉のまちづくりを目指します

○基本計画の体系○

基本計画①(仕組み) 安心安全の地域づくり

- 安定・継続したニーズ把握
- 新たなニーズ・潜在化したニーズの把握
- 安心安全ネットワーク活動の推進

基本計画③(手段) 利用者主体のサービスづくり

- 介護保険等事業福祉サービスの質と量の確保
- ニーズ対応型サービスの開発支援
- 総合的な相談支援体制の整備
- 利用者中心の質の高いサービスの提供
- 利用者の適切なサービス選択の保障
- 地域福祉権利擁護事業及び成年後見制度の活動体制の整備

基本計画②(人) 地域福祉を担う人づくり

- ボランティアセンターの充実
- 地域協働の担い手づくり
- ライフサイクルに応じた学習・活動機会の提供

基本計画④(運営) 新しい社協の組織・基盤づくり

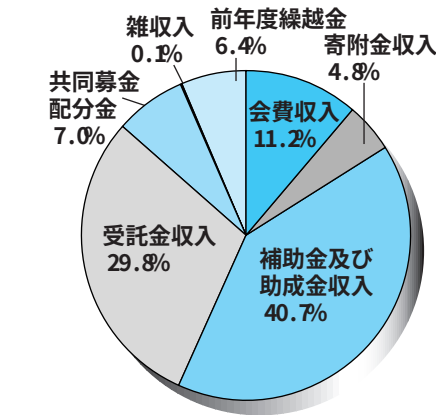
- 事業経営理念の明確化と情報公開
- 市町村合併への対応
- 地区社協の設置にむけた研究
- 地域の総意を結集する組織機構の構築
- 地域に根ざした役員体制の確保
- 財源確保と財務運営の実施

平成20年度事業予算

◆一般会計

収入		(単位:千円)
会 費 収 入	3,000	
寄 附 金 収 入	1,300	
補助金及び助成金収入	10,900	
受 託 金 収 入	7,982	
共 同 募 金 配 分 金	1,870	
雑 収 入	40	
前 年 度 繰 越 金	1,710	
合 計	26,802	

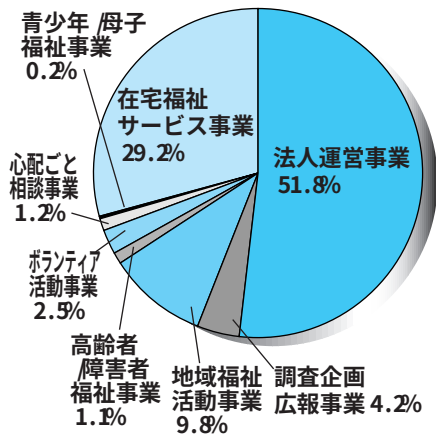
支出		(単位:千円)
法 人 運 営 事 業	13,892	
調 査 企 画 広 報 事 業	1,114	
地 域 福 祉 活 動 事 業	2,627	
高齢者・障害者福祉事業	301	
ボランティア活動事業	647	
心 配 ご と 相 談 事 業	319	
青少年・母子福祉事業	66	
在宅福祉サービス事業	7,836	
合 計	26,802	



介護保険事業特別会計予算 (訪問介護、居宅介護支援、 障害者自立支援)

収入		(単位:千円)
介護保険収入	11,430	
障害者自立支援収入	355	
受 託 金 収 入	582	
雑 収 入	30	
合 計	12,397	

支出		(単位:千円)
人件費支出	10,595	
事務費支出	1,329	
負担金支出	373	
予 備 費	100	
合 計	12,397	



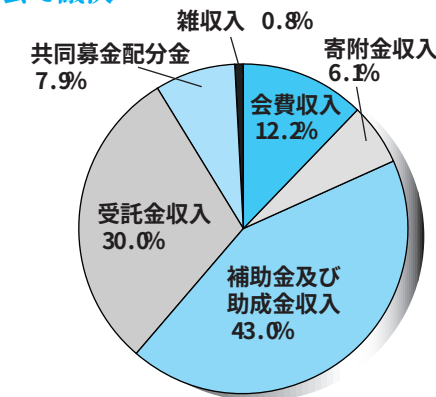
平成19年度事業決算報告

一般会計5月1日の理事会及び評議員会で議決

◆一般会計

収入		(単位:円)
会 費 収 入	3,087,600	
寄 附 金 収 入	1,543,149	
補助金及び助成金収入	10,900,000	
受 託 金 収 入	7,598,843	
共 同 募 金 配 分 金	2,004,479	
雑 収 入	211,741	
合 計	25,345,812	

支出		(単位:円)
法 人 運 営 事 業	12,730,671	
調 査 企 画 広 報 事 業	987,963	
地 域 福 祉 活 動 事 業	2,869,209	
高齢者・障害者福祉事業	447,170	
ボランティア活動事業	570,251	
心 配 ご と 相 談 事 業	314,600	
青少年・母子福祉事業	62,000	
在宅福祉サービス事業	7,064,899	
合 計	25,046,763	



介護保険事業特別会計決算報告 (訪問介護、居宅介護支援、障害者自立支援)

収入		(単位:円)
介護保険収入	12,926,419	
障害者自立支援費収入	467,500	
受 託 金 収 入	741,910	
雑 収 入	36,000	
受取利息配当金収入	10,632	
合 計	14,182,461	

支出		(単位:円)
人件費支出	12,971,467	
事務費支出	883,124	
負担金支出	344,422	
合 計	14,199,013	

訪問介護事業実績

延べ利用件数	2,866件
延べ訪問時間	2835.5時間

居宅介護支援事業実績

延べプラン作成件数	376件
-----------	------

障害者自立支援事業実績

延べ利用件数	160件
延べ訪問時間	160時間